（2）全体的な傾向

・学習指導要領の内容では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」ともに全国・県を上回っている。「読むこと」の領域が、全国・県と比べてわずかに下回っている。

・評価の観点別では、「知識・技能」が全国と同程度、県よりわずかに上回っている。「思考・判断・表現」は、全国・県と比べて上回っている。

(3)今後の取組

・全国平均と比較して低かったのは、、「文学的な文章の構成や展開、登場人物の設定を捉える問題」であった。授業では「読むこと」の領域に重点を置き、文章の構成や展開、登場人物の設定を正確に捉えることを意識して取り組ませたい。

〔数　学〕

全国を下回る・県を上回る

(1)全国との比較(全国の平均正答率と比べて)

① 高かった問題(正答率が全国を5ポイント以上、上回ったもの)　15問中2問

・ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める　(「相対度数の意味を理解しているかどうか」を見取る問題です)

・'連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める

(「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうか」を見取る問題です)

② 低かった問題(正答率が全国を5ポイント以上、下回ったもの)　15問中6問

・1から9までの数の中から素数を全て選ぶ

(「素数の意味を理解しているかどうか」を見取る問題です)

・一次関数y＝6x＋5について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める

(「一次関数y＝ax＋bについて、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうか」を見取る問題です)

・連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する

(「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうか」を見取る問題です)　など

(2)全体的な傾向

・学習指導要領の領域別では、「数と式」「図形」では県を上回っているが全国を下回っている。「関数」「データの活用」では全国・県を下回っている。

・評価の観点別では、「思考・判断・表現」で県を上回っているが全国を下回っている。「知識・技能」は全国・県を下回っている。

(3)今後の取組

・本校の課題は、素数や一次関数の変化の割合といった基本的な「知識・技能」の定着不足であり、これが特に「関数」領域の学力低下につながっている。

・授業冒頭の小テストなどで基礎的な計算や用語の確認を徹底し、知識の定着を図る。関数の授業では、グラフや身近な事象を積極的に活用し、式の意味の理解につなげる。文字式による説明などの抽象的な思考へつなげる指導を大切に行う。